

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム 朝風		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	平成23年10月24日	評価結果市町村受理日	平成23年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が毎日笑顔で楽しく暮らせるように本人、御家族とのコミュニケーションを大切に日々ケアの向上に努めています</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400956&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400956&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>広大な法人の敷地に母体の協力病院と併設している「グループホーム 朝風」は、同敷地内に系列事業所のケアハウスや他グループホームがあり、法人関係の協力が得られる環境に立地している。建物内は全体的にゆったりとした造りで、居間の広い窓から景色が眺められる。廊下幅は広く、各居室の近くにトイレと洗面所を配置し移動に便利である。協力病院のバックアップがあり、24時間の健康チェックや緊急時などは本人・家族の安心感に繋がっている。お花見や収穫祭には病院の中庭で、手作りの弁当を提供して楽しめるような機会もある。また法人内の他施設多目的ホールでの催しに参加したり展示物を見に行くなど、法人関係での連携を活かして交流の場を広げている。暖かい時期には散歩や買い物などで外に出る機会は多く、年間行事には「バスレク」を計画し家族も参加するなど、季節折々の外出が充実している。冬季の受診には外付けの渡り廊下を行き来して外気に触れ、運動にもなっている。法人の組織的な体制が整っている環境で職員はケアに従事でき、利用者がゆったりと楽しく暮らせるように個別支援を目標に明るい笑顔で利用者に接している。</p>
---

. サービスの成果に関する項目(朝風 アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努める事を法人理念に掲げ、ゆっくり、一緒に、楽しく、地域に根差して生活出来る事を目標に日々取り組んでいます	法人の他グループホームと共通の運営理念の中に地域に根差した暮らしという文言があり、それに沿って事業所独自の介護理念を作り、各ユニットに掲げている。「1、ゆっくり 2、いっしょに 3、楽しい暮らし」を意識し、日々のケアで実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会の総会に出席、小学校の資源回収に協力、お祭りに参加と地域との交流を大切にしています	各地域のお祭りに参加している。法人事業所の行事に利用者も参加し、ケアハウスの利用者や来訪している近隣住民と交流している。近くの小学校や幼稚園の運動会を見学しているが双方間の交流にまで至っていない。散歩中に近所の方から花をもらったり、買い物や外出時には積極的に挨拶を交わすなどの身近な交流はある。	小学校に定期的な交流を働きかけているので、双方間での交流に発展できるような取り組みに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の方に日々行っている支援の報告を行い認知症への理解をしていただいています。又地域の人に役立つ情報も提供しています		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族の方に地域包括支援センターの方たちの取り組みや町内会との関わり方について報告また意見交換の場になっています	法人の他グループホームと合同で2ヶ月ごとに会議を開催している。全家族に会議案内と議事録を送付し、5～6名の参加がある。事業所報告、サービス評価報告などの他、防災についても話し合っているが、地域との協力体制に不足な面が見られる。	町内会からも複数の参加を得て、利用者と近隣住民との関わりや緊急時の協力体制作りなど、地域とのより緊密な関係が得られるよう期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護度申請、介護度区分申請、事故報告書提出等で市の担当者との連絡を取り合い協力関係を築いています	書類関係や制度的なこと、また分からないことがある時は出かけて担当者に相談するように心掛けている。生活保護担当者の来訪時には個別の相談や情報を交換し関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準を職員が理解し、身体拘束をしないケアを実践しています。玄関の施錠は夜間のみ防犯上理由でおこなっています	各機関から情報を収集し、身体拘束の具体的な禁止の行為を理解している。外部研修の伝達報告で抑制に繋がる言葉遣いについても確認している。職員に資料のコピーを渡す他、勉強会も検討している。日中は鍵をかけず、寄り添う姿勢で利用者の出入りを見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外で実施されている研修への参加、及び通達を確認しながら職員への周知を行っている。又研修内容を職員へ伝達し意識づけを行い防止の徹底を図っています		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議において支援センター職員による制度についての話や家族の実体験を聞く機会があり学ぶ場となりこれからの支援に役立てていきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時、利用者、家族に十分な説明と話し合いを持ち理解と納得をしていただいています		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者、家族の意見、希望に耳を傾け毎朝のミーティングやフロア会議、運営推進会議において反映しています	利用者の暮らしが分かるように行事や暮らしの写真を掲示し、家族の来訪時には相談する中で意見を引き出すように努めている。利用者や家族から気付いたことを話してもらい、些細な意見をも介護記録に記載し共有している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は共に現場で考え助言する統括ホーム長を組織の中に置いており毎日のミーティング時又は月1回のホーム長と管理者会議において職員の意見の反映に努めています	統括ホーム長は週に4回申し送り時に参加し、職員と情報を共有している。毎月の管理者会議で職員の意見を管理者から統括ホーム長に伝える仕組みはあるが、職員間で意見を交わし確認するような全体的な会議などは設けられていない。	全職員間が意見を出し合い、業務の改善や対応について交換ができるような定期的な会議の場作りなどに期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括ホーム長に職場の状況を日々報告し環境整備、条件の整備を図っていただいています		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福和会での研修に参加させていただき、また外部研修後報告会にてスタッフに内容を浸透させることができました		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議に出席し意見交換を行っています。他のホーム見学も実施し交流を持つことができました、サービスの向上に努めたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居受付窓口は運営法人の相談員で入所前より相談員より情報をいただいております、また施設見学時に不安なこと、希望等に耳を傾けながら良い関係を築くように努めています		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、利用者、家族から不安なこと等希望が出しやすい雰囲気作りに努めています		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に家族、本人の要望を確認し、出来る事、出来ない事をしっかり説明する事で信頼関係をきずいています		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学び得る事は多々あり(人生の先輩)職員はその入居者に感謝の気持ちを持ちながら接しています		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現況報告を月1回必ず行い、入居者自信を中心とした関係作りに努めています		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が思いを直接伝えられないことが多く、家族を通じ働きかけていただく等支援しています	毎日のように訪れる町内の知人来訪時には、お茶を出して居室でゆっくり過ごせるように対応したこともある。お墓参りや外食などは家族の協力で行われている。入院中の知人の見舞いに職員が同行することもある。手紙を出すのを手伝ったり電話を取り次いだりして関係が続けられるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶会、誕生会、バスレクリエーション、収穫祭など行事を企画しており支え合う関係を築いています		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今迄の関係はこれからも継続する事を伝え、気軽に立ち寄ってもらえるように働きかけています		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人御家族の意向を聞くようにしており、本人の立場に立ったケアプランの立案、実践、評価を通して思いやり意向をしっかり捉える努力をしています	利用開始時に法人系列事業所の相談員が作った情報を基にアセスメント表を作成し、生活歴や趣味などの情報を得ている。見直し時に新たな情報を追加し、意向を介護計画に反映させている。会話が困難な利用者には表情や行動を見て思いを把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に出生から現在までの生活歴を書いていたでています		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に毎日の健康状態夜一日の過ごし方を記録しています		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム、家族、本人(難しい場合本人の意向)を含めて共同で作成しています	本人・家族の意向を盛り込んだ暫定計画を1ヶ月以内に見直し、その後状態が安定している場合は短期を3ヶ月、長期を6ヶ月ごとに見直している。利用者の担当者は計画作成者と毎月の状態を書式で確認している。見直し時にカンファレンスでモニタリングの確認と評価を行い、それらを基に更新計画を作成している。本人、家族には見直し時に意見を求め、介護計画書に反映させて同意を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた実践を日々記録しており、その結果をプランの見直しにつなげています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	期間に応じ見直しを行っており、又本人の変化が生じた時にはその都度対応を検討し、プランの修正を行っています		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の訪問、運営推進会議への参加、ボランティアによるマジックショー		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医である協力医療機関や、他科など利用者が希望する医療機関への支援体制も確保しています。看護師が日常的な健康管理や受診経過の把握、医師との連携で医療支援に努めています	併設協力病院に受診し、職員の同行で主治医と連携を密にしている。他科受診で家族が同行する際には文書で経過を報告し、主治医間では医療情報提供書を介し共有している。受診記録は介護記録の受診欄に記載したり個人別の記録で内容を共有している。	

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や助言、対応を行い支援しています		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を第一に相談し、必要な情報を交換、共有しつつ入院中も安心して過ごせるように配慮、支援しています		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて早い段階から、かかりつけ医、経営者、管理者と家族で随時話し合いの場を設けてその都度方針を確認し合っています	重度化した場合における対応と看取りの考え方を文章化し、利用開始時に同意を得ている。病状の状態から早い段階で主治医の説明を基に家族と方針を確認している。医療処置が続く場合は入院方向となっている。「連絡ノート」や個人記録に記載し方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している病院と医療連携をとっており急変時は日中、夜間共に診察を受けられる体制になっています		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練と消防署への研修に参加し避難方法を身につけています、隣接病院と協力体制を築いています	消防署の立会いの下に避難訓練を年に2回実施している。日中を想定して併設の協力病院と合同で行い、事業所独自に夜間を想定して避難訓練を行ったが、町内会や近隣の参加は得られていない。火災以外の防災や備蓄類などは病院と検討している。	運営推進会議で話し合っている災害時の協力体制作りなどを具体的に進め、避難訓練の際にも住民の参加が得られるような取り組みに期待したい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーを守り、言葉や語調について配慮し支援しています	法人内で接遇の内部研修を行い、苗字に「さん」付けを基本に個性を尊重した丁寧語で大声を出さないように話しかけている。個人記録は職員室に保管してプライバシーに配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る人は意向を確認し、自己決定出来ない人は表情や仕草から気持ちを読み取り、可能な限り意向を確認し支援するよう努力しています		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、必要な支援を行っている、また本人のペースを尊重しつつ体力や状態に合わせた生活の組み立ても考え支援しています		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じ、訪問理容、美容を利用し、1人1人が大切にしているおしゃれや身だしなみを支援しています		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時には音楽を聞きながら職員と一緒にメニューを確認しながら食事をします	献立は利用者の好みや希望を取り入れながら栄養士が作成している。手作り弁当を持ってお花見などに出かけたり、誕生日には本人の希望献立にしたりしている。秋には畑の作物で収穫祭を行い、戸外での食事を楽しんでいる。準備や片付けも利用者と職員と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日1000mlの水分を取るよう支援しています、又食事でも残さず食べられるようにその人にあう量に盛り付けています		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨きをしていただいています、自力で出来る方は声かけています、できない方はこちらで支援しています		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎にトイレ誘導し排泄の失敗を少なくしています	排泄チェック表に記録して、昼夜を問わず声かけを行いトイレでの排泄を支援している。失敗した時もプライドを傷付けないように配慮した言葉かけを行い、可能な限りおむつを使用しないように改善に向けた取り組みを行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューに繊維質のあるものを取り入れたり、水分を多めに取っていただいています		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	心身の状態を把握し、配慮しながら実施している、本人の意向で熱い湯、ぬるい湯と調整して入浴を楽しんでいただいています	各ユニットごとに入浴日を決め、各利用者が週2回入浴できるように支援している。利用者の好みの湯温に調節したり入浴時間や入浴順に配慮して、入浴が楽しめるように工夫している。気分転換できるように入浴剤なども変えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休めないとき、職員が話相手になったり、眠れるよう1人1人にあった方法や環境を把握し対応しています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示に基づき、わからないところは確認しながら服薬の支援と変化の確認につとめている。誤薬がないようにスタッフ間で声かけています		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等の情報から職業や趣味を生かし役割分担や行事参加の楽しみを利用者とともにしています		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>毎日の天気に合わせて戸外散歩やバスレクリエーションで海に行ったり、北海道神宮に出かけたり、紅葉を見に行ったり、スーパーに買い物に出かけたりしています</p>	<p>天気の良い日は毎日近隣を散歩したり近くの公園に出かけている。家族の協力の下、個別に外出したり職員と買い物に出かけることもある。6月から10月までは家族にも声かけて毎月バスレクを計画し、ほぼ全員で外出を楽しんでいる。冬季は通院などで外気に触れるなど、年間を通じて外出する機会を作っている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の認知能力に応じてお金を所持させています</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の認知能力により電話や手紙を書いていたいています</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとに装飾し又利用者の作品や写真を貼り楽しむがもてるようにしています</p>	<p>全体的に広々とした開放感のある造りで、清掃も行き届いた清潔感のある共用空間になっている。居間の大きな窓からは明るい光が注ぎ、四季の移り変わりを視界に感じながらソファでゆったりと過ごすことができる。トイレの数も多くプライバシーに配慮した場所に設置するなど、利用者が居心地よく生活できるような造りになっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールでのソファの座る位置がそれぞれ決まっており、それぞれが一番安心できる場所になっています</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染みの物を持ってきていただき、居室内で心地よく過ごせるよう配慮しています</p>	<p>各居室はゆったりとした広さがあり、窓際のカウンターにはぬいぐるみや人形、お花など好きな物が飾れるようになっている。ベッドが備え付けられており、各利用者はタンスやテレビなどの馴染みの家具を配置したり、ぬり絵や写真を壁に貼り、居心地よく過ごせるように工夫している。冬季は濡れタオルなどを利用して湿度調節を行っている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>通路、トイレ、浴室には手すりが付いており、安全に使用出来る、各スペースも広くつくられているので車椅子でも安全に過ごすことができます</p>		



### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム 朝風		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	平成23年10月24日	評価結果市町村受理日	平成23年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念	1 ゆっくり 2 いっしょに 3 楽しい暮らし
------	-------------------------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400956&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400956&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

サービスの成果に関する項目(朝風 アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした穏やかな暮らしを大切にし利用者の命と心のケアとご家族の心身の緩和に努めます」という理念を掲げて日々努力しています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し町内の行事に参加できるようにし、隣接のケアハウスの住民の方々とのふれあいや交流。地元のスーパーの買い物など地域の一員として暮らせるようにしています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々の訪問があった時認知症の対応の仕方、どこへ相談すればいいかなどのアドバイスをしています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価で改善点などの指導を受けたことは、運営推進会議で報告し、検討し、皆さんの意見を聞きサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の担当者とは運営推進会議等で連携。区の担当者の訪問時には利用者の状況ホームの実情をその都度報告しています。市や区の担当者が出席する管理者会議で情報の共有や必要な知識を得るなどの機会を確保しています。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ防犯上の理由で施錠しているが、日中は開錠しています。身体拘束はしていません。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年も2名研修に参加。内容を職員へ伝達し、意識を高め職員間で注意し合い防止に努めている。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度の理解が出来るよう研修への参加を積極的に行い、また入居者の状況に適切に対応できるよう制度を活用して行きたいと思っています。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>「運営規程」「重要事項説明書」「利用契約書」などをもとに十分な説明を行って納得を図っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族に意見や意向のほか些細なことでも相談していただける雰囲気や関係作りに努め、その都度課題となる要因を探り検討して運営やケアサービスに反映させている。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>統括ホーム長を中心に話し合いを月1回開催し、諸問題について検討し、反映させている。</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>スタッフより管理者、管理者より統括師長より代表者と、風通し良くなっている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営法人内の学習会や研修参加のほか外部研修は適宜必要と思われる職員に勤め計画的に育成できるように努めています。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>隣接する系列ホームとの交流や連携をしているが、他ホームとの交流は充分でなく検討していきます。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営法人の相談員との連携を良くし、本人・家族からよく話を聞いて利用者本位にたった支援が出来るように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまで援助してきた家族の思いを知り大切にしてきた思いを、尊重し安心してもらえるように努めている。何事も決め付けず柔軟な対応に心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族によく話を聞き今必要としている援助を見極め他のサービスを紹介したり市町村とも連携していくようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自尊心を傷つけないように出来ないことはさりげなく援助し本人の得意なことは手伝ってもらい、生活に張りを持って暮らせるように援助している。(食器洗い・洗濯物たたみ・縫い物・畑仕事など)		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気がかりなことや意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したり出来るように面会時の声かけ定期的連絡等を積極的に行っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者一人ひとりに対する家族や親しい人の訪問等が入居当初よりも活発であるよう支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の口論や争いの原因を把握し、必要な場合にはその解決に努め当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないように努めている。穏やかな時はその関係を見守る。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去は契約に基づくとともにその決定過程が明瞭である。又、入居者家族に十分な説明を行った上で納得の行く退去先に移れるように支援していき引き続き相談や支援に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の声をいかし本人がよりよく暮らすための課題を皆で探り、本人本意に検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとり生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支える為にそれを生かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりのその日の健康状態、心理面などを見極め自己決定を尊重しながらリズムのある生活を試みる。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて入居者主体の目標を立て入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画をすべての職員の気づきや意見を取り入れて作っておりすべての職員が計画の内容を知ることが出来る仕組みになっている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるために入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に毎日記録している。アセスメントに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関で季節の行事に参加したり、週二回の音楽療法または個別のリハビリ療法を受けたり、協力体制が確保されている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の生活の安定や拡がりのために周辺地域の諸施設からの協力を得ることが出来るよう理解を拡げる働きかけを行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医である協力医療機関のほか、他科など利用者が希望する医療機関への支援体制も確保して支援している。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者でもある看護師が常勤しているため、いつでも何か変わったことがあれば外来受診し医師と相談して健康管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病状の把握入院の様子などを知り、情報を提供したり、随時相談し訪問している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応(看取りの指針)について家族との話し合いを段階的に行いどこで最後を迎えるのかを確認して不安のない援助をする。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院本体がバックアップ施設となり24時間の支援体制が確立されておりいつでも看護師の支援を受けられる状況にある。定期的に訓練しています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署や病院の協力にて訓練を行っています。今年から夜間想定で行いました。地域の方とは運営推進会議で話し合っています。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に一人ひとりの違いの尊重さりげない介助プライベートな場所での礼儀・本人の返答能力に応じた質問方法本人が思っている「現実」を否定しない等。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人記録にその日の状態を詳細に記録し職員間での日々の暮らしをその都度申し送り時などでアセスメントしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの希望に合わせて理美容院の利用を支援している。(カット・パーマ・染め等)		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。準備も片付けも一緒にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士によりたてられるので、必要な栄養は補われている。食事の取れない方は医師と相談をし補助食品を使っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、プランに沿って援助をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを出来る限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄の誘導介助や確認、失禁の対応は不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を知り、個々に応じ運動、食事の工夫下剤などの使用により便秘をしない工夫をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの意思を尊重し、ゆったり楽しんで入浴できるよう毎回記録に残し担当者それぞれが参考にし、工夫できるようにしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には日中の生活リズム作りをし安眠策を取っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示通りに服薬できるように支援し症状の変化を確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの力を活かせるように食器洗い、配下膳、お茶いれ、清掃、縫い物、料理、洗濯たたみ等自発的に出来る状況を作り新聞雑誌などいつでも読めるように配慮している。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 )	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者がホームの中だけで過ぎずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気作りをしている。(買物・散歩・近隣訪問・畑など)年5回、普段は行けないような場所へ出かけられるよう支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員がわかっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるようにプライバシーに配慮しつつ支援している。(手紙や電話の利用の奨励、介助等)		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間が、いずれも家庭的な雰囲気有しており季節の花を飾ったり作品を飾りいつも季節感を楽しんで過している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥にベンチがあり広いホールにはソファが六個あり自由にいつでも座って談笑できる環境になっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ安心して過せる場所となっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を図る為に入居者の出来ること、出来ない事の見極めをし、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。		



目標達成計画

事業所名 グループホーム 朝風

作成日：平成 23年 12月 5日

市町村受理日：平成 23年 12月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	全職員間が意見を出し合い、業務の改善や対応について交換出来る定期的な会議がない	全職員が業務の改善や対応について話し合える場が持てる	2か月に一度第3金曜日に、合同で会議を行う	1か月
2	4	運営推進会議に町内会からは会長 名の参加しかない	町内より複数の方が会議に参加していただける	会長さんの協力を得る又町内の行事などに積極的に参加し交流を深め理解していただく	1年
3	2	近隣の小学校、幼稚園、保育園との交流がない	近隣の小学校、幼稚園、保育園と交流が持てる	近隣の小学校、幼稚園、保育園に訪問し交流出来るように働きかける	1年
4	35	避難訓練年2回併接する病院と合同で行っているが町内会や近隣の住民の参加を働きかけていない	災害時の地域との協力体制ができる	併設する病院と協議し町内会や近隣の住民に協力していただく体制にしていく	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。